

中村じゅんや 議員だより



連絡先(事務所)：〒410-1107 静岡県裾野市御宿1500 全矢崎労働組合裾野支部内

<TEL> 055-997-1336

<E-Mail> junya_shizunaka@office.tnc.ne.jp

<FAX> 055-997-5745

<URL> http://www.junya-susono.club/

令和2年度は、前進するか？ 新型コロナウイルスの影響は？

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、3月当初から5月下旬まで、世界の生産活動がほぼ休止の状態に追い込まれました。頭では理解していた、あるいは言葉にもしていた「生活のICT化」は、にわかに世界中で注目が集まり、この2～3か月の間に、私たちの生活の中にもさまざま入り込み、体験・体感する環境が生まれました。テレビ番組にもオンラインが取り込まれ、伝える側も見る側も共に映像配信・映像受信を体験し、また「dボタンで投票」から「チャットコメント」などリアリティーは格段に浸透したようにも感じますね。これが次世代技術の入口でしょうか？ 感染症に対する特効薬等ない中でも、人類の生活の質をこれ以上抑制しないためにも、経済活動が始動。「新しい生活様式」はもちろん「仕事の仕方」もおそらく様変わりし、また消費者ニーズも急変するなかでどのように経済を盛り返すのか。そして年初に未来都市構想を発信し、その基盤となる裾野市の役割とスピードへの期待が集まる中、どのような市政運営、どのような戦略を放つのか。この「時」の活用は、さらに重要性を増しました。今の暮らしに安心を取り戻し、併せて向上するための戦略に知恵を絞っていきましょう。

5月臨時会、6月定例会

新型コロナウイルスとどの様に共存していくか、臨時会では国や県が実施する対策が適用できるよう整備が行われ、まずは感染拡大防止のための対応が取られました。6月定例会は、経済再建のための取り組みや、第2波への備えなど感染症と隣り合わせの中でも前に進む為の事業について審議。行政も経済も持続可能な取り組みに集中する必要がある様です。

■■ 感染症対策補正予算をステージに分けてみると、■■



【業務再開・経済回復】

- ・GIGAスクールネットワーク整備費用 3億1千万円
- ・工場用地の為の基本調査 800万円
- ・50%のプレミアム付商品券 2億6千万円

【事業継続・雇用維持】

- ・中小企業の県融資利子を実質負担0.5%に抑制 15百万円
- ・事業自粛協力金(20万円/店) 4千万円
- ・登園自粛要請協力金 94万円
- ・休館した公共施設指定管理者の補償 7百万円
- ・内定取り消し新卒者の任用(4名) 740万円



地域経済活性化が目的の
プレミアム付商品券。
100%活用なるか？

1万円で1万5千円分の商品券
を2セット/世帯まで購入可能

<購入の流れ(予定)>
引換葉書を全世帯に郵送。7月

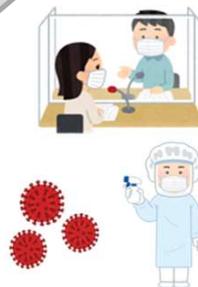
↓
商品券を購入(8月～)

↓
登録店舗で、商品やサービス購入
8月～10月末(短期集中)※

- ・業種制限なし
- ・直接経済効果2億2千万円
- ・間接経済効果は、2倍

【感染拡大防止】

- ・公共施設感染予防物資の購入費用 150万円
- ・バス・タクシー消毒液購入補助 100万円
- ・裾野赤十字病院感染対策物資補助金 1千万円
- ・防災備蓄補填等感染対策物資購入費 14百万円
- ・避難所感染対策物資購入費 8百万円



ワクチンは開発途上ですが、自粛だけでは、体も経済も不健全に。自衛を基本に、生活が困窮しないよう人を動かし、経済を回す方向に舵が切られました。県境移動も解除し、観光分野では各種割引が創出。各種補助金の乱発で将来にツケが回されたことも、次世代にしっかり伝えた上で、共存社会に向けた対応が必要になります。

※は、なぜか議会終了後に急遽決定。12月迄から短縮されました。

一般質問（会派未来すその）

裾野市のコロナ感染症対策。どうしても近隣の市町や他県の対応などと比べてしまいます。今市民の不安は何か、どの部分に投資すれば市の活気を維持できるかなど、現場を見て対応するのが普通のような気がします。現場を見て聞いているか？ 国や県の動きをただ待ってやしないか？ 苦しい時にこそ頑張らなければならないのが行政。安定した職業として、就活対象としてまた浮上してきた公務員ですが、しっかりとした基軸を示す手腕が問われます。

■暮らしの継続に必要な生産活動、消費活動に対し経済再構築を積極的に行おう。

感染症との共存社会となるが、冷え込んだ経済は長く影響を与える。雇用など住民生活を守り、かつ地域に根付く事業所を支援し、市政の安定につなげる必要があると考えるが、対策は。

A. 市内どの事業所、どの業種でも利用できるプレミアム付商品券を発行する。券には追番を付け、抽選などに活用してもらえる様工夫する。あくまで第1段の策であり、引き続き実効性ある施策を検討する。



■明日起こるかもしれない自然災害と感染症対策

多くの住民の拠り所となる避難所での、感染症対策が急務で、対応の周知も早期に行う必要がある。どの様に対応し、展開するつもりか伺う。

A. 避難者の検温トリアージやスペース分けなど、感染症対策を加えた運営改定を実施。配置する職員教育も実施中で、6月18日には東小で模擬訓練を行い検証する。月末には防災研修で地区防災委員にも展開し、命を守る自宅や近所の避難所のあり方を周知していく。



■将来を担う子どもの教育環境を維持しよう

教育ICT化の必要性は更に増した。オンライン活用などは、不登校や療養中の子など、どの様な環境下であっても教育の機会が失わせぬ環境となりうる。国の構想に遅れず構築が必要では無いか？

A. 教育の機会には、安心安定の環境が不可避である。国の補助金を活用し、年度内にネットワーク環境を構築させたい。また前倒して推進される1人1台端末の実現を始めとするGIGAスクール構想にも追従し、委員会を設置し検討を始めた。9月議会上程に向けて準備を進める。



■裾野の希望の光となりうる、企業等からの注目を逃さぬ様、しっかりとした準備をしよう。

地域の課題を技術で解決するSDCC構想には、多くの企業からアイデア応募があったと聞く。スーパーシティ法案への立候補など、今後どの様に進めていくつもりか。

53社から200を超える課題解決案が寄せられ精査している。市が掲げる9つの分野中、少なくとも5つの分野をまとめ、8月頃予定される国の規制緩和への提案に名乗りをあげたいと考えている。

声に応えた、コツコツ活動をご紹介

Stay at Homeでも相談事は絶えません、動き回り、市職員の協力を得て、少しずつではありますが、反映に努めています。ちょっとご紹介。

- ・訪問型の鍼灸マッサージ治療にも、助成券が使える様、事業所登録要件を緩和し、拡大。

- ・市ホームページ「離婚手続き」サイトに、子どもの将来を考えた「交流面会」の機会確保を促す記述を追加
 - ・コロナ休館中使えなかったヘルシーパークの回数券の利用期限を延長（9月末→12月末まで）
- ※山積みの宿題、早期実現に向けがんばります。

各種活動のご紹介

- 会派の会議もオンライン化いつでもどこでも！？



- 地域活動自粛でも草は生える学校休校で運動不足気味の子もたちと共に、普段参加している美化活動を紹介しつつ、草取り作業。一歩踏み出せばグチなんてどこへやら。楽しかった！？

- セミアダマスク！？
戴いた手作りマスクを装着して可能な限り徒歩で、出社、登庁しています。歩くとき多くの方の意見を伺うことができます。健康にも良いし！
※全矢崎労働組合では、組合員の手作りマスク519枚を社会福祉協議会に寄付しました。

